ODIPv3.2.8修正パッチ（P20171228）リリースノート

2017/12/28

（株）インテリジェント・モデル

この文書は、ODIP™ Enterprise Solution v3.2.8 に対する修正パッチ（P20171228）、Build-id: 103020800201712280 に関する修正を記述したものです。

ODIP は，（株）インテリジェント・モデル社の登録商標です。
本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害，利益の損失，経費などについて，（株）インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。
本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き，禁止されています。

目　次

A. 変更内容 4
1. ODIPリポジトリ・マネージャの改定 4
2. ODIPアドミニストレータの改定 6
3. プロジェクトデータの入出力性能改善 6
4. ODIPリポジトリ・サーバにおける例外処理の改定 6
B. 適用対象 8
C. パッチのインストール方法 8
1. パッチファイルの内容 8
1. ODIPアドミニストレータへのパッチの適用 8
2. ODIPオペレーションマネージャへのパッチの適用 9
3. ODIPリポジトリ・マネージャ/プロセスマネージャへのパッチの適用 9
4. ODIPリポジトリ・サーバへのパッチの適用 10
5. ODIPトランスフォーマへのパッチの適用 11

A. 変更内容

1. ODIP リポジトリ・マネージャの改定

(1) 検索機能追加

プロジェクト・ウィンドウで，“Ctrl+F（検索）”キーが使用できるようになりました。

(2) 変更内容表示機能追加

更新履歴・ウィンドウに，“変更内容”表示オプションが追加されました（図 1）。バージョンを選択してオプションを実行すると，そのバージョンで追加，変更，削除が行われたデータ名称，休日テーブル，期管理，データソース情報，ユーザビュー・タイプ，時系列日付，ユーザ関数，フォルダ，管理単位の一覧が表示されます（図 2）。さらに，変更内容の一覧から要素を選択して“詳細表示”オプションを選択すると，直前のバージョンとの相違点が表示されます（図 3）。

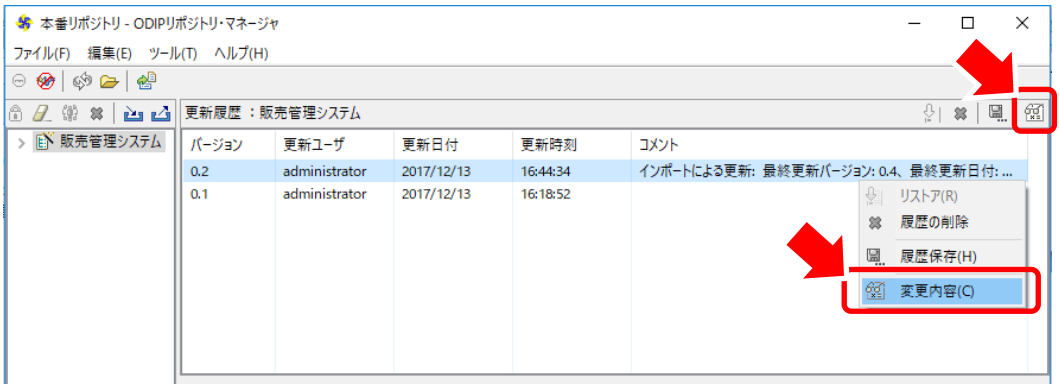

図 1　ODIP リポジトリ・マネージャの表示例

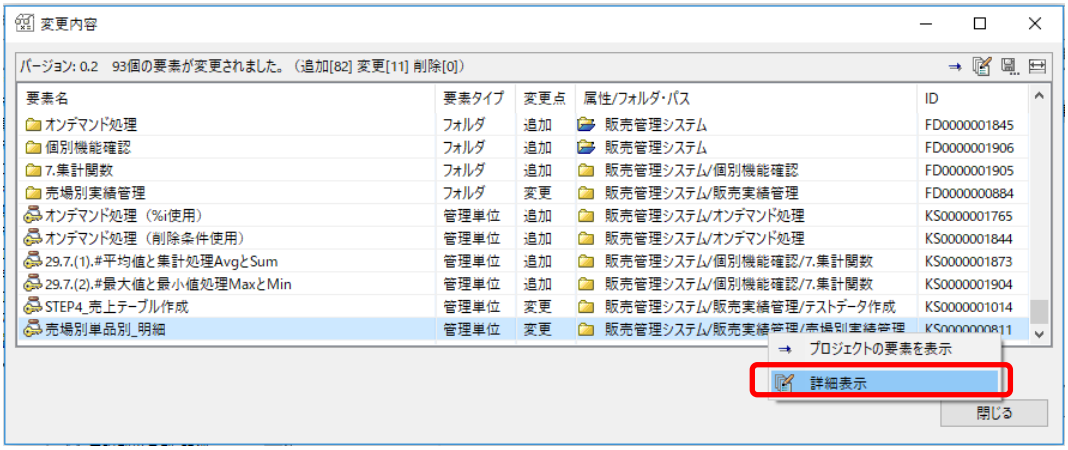

図 2　変更内容の表示例

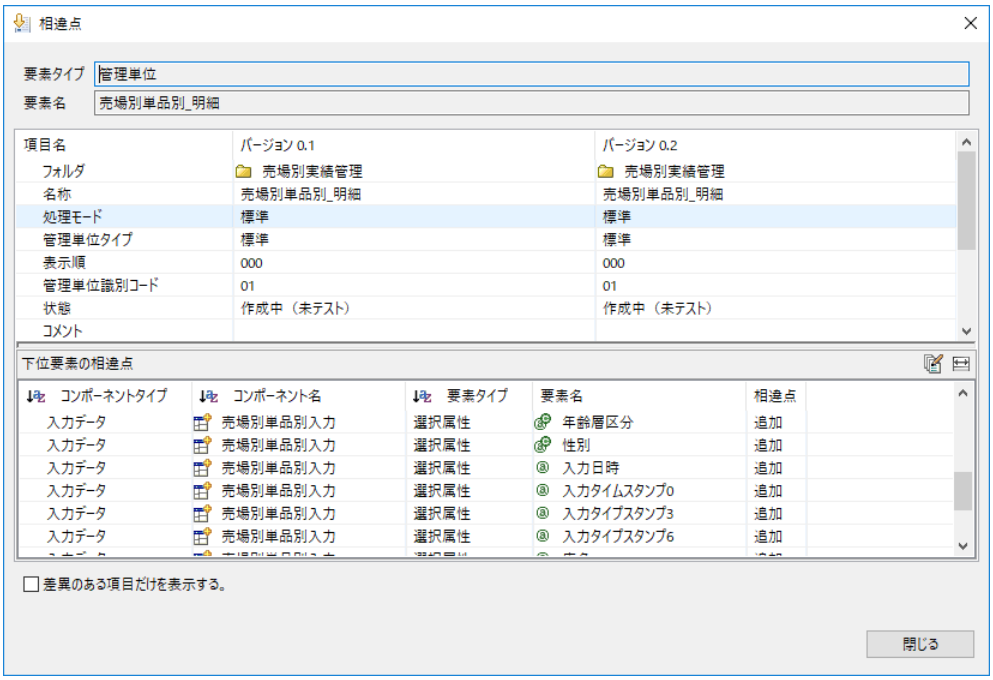

図 3　相違点の表示例

(3)　インポートのログ出力内容変更

他のリポジトリからエクスポートした定義をインポートしたときに出力されるログは，次のように変更されました。

① リポジトリの更新対象となった，データ名称，休日テーブル，期管理，データソース情報，ユーザビュー・タイプ，時系列日付，ユーザ関数，フォルダ，管理単位が一覧に出力されるように改定されました。管理単位よりも下位の要素は，出力されません。インポートログの一覧は，前述の“変更内容”オプションで表示される変更内容一覧と一致します。

② 更新された要素の一覧には，“変更内容”表示と同じ，要素タイプ，属性名，変更点，属性名/フォルダ・パス，ID が表示されるようになりました。

③ リポジトリの更新件数が出力されるようになりました。例えば，“更新後のプロジェクトは、ORMS に正常にコミットされました。93 個の要素が更新されました。(追加[82] 変更[11] 削除[0])”のように出力されます。件数は，前述の“変更内容”オプションで表示される件数と一致します。

(4)　エクスポートのログ出力内容変更

最終更新ユーザ，最終更新日の出力順がヘッダと同じになるように修正されました。

（変更前の出力例）

[タイプ],名称,バージョン,最終更新ユーザ,最終更新日

[Project],販売管理システム,0.17,2017-12-15,Administrator

（変更後の出力例）

[タイプ],名称,バージョン,最終更新ユーザ,最終更新日

[Project], 販売管理システム,0.17,Administrator,2017-12-15

2. ODIPアドミニストレータの改定

リポジトリ・タブで,“Ctrl+F（検索)”キーが使用できるようになりました。

3. プロジェクトデータの入出力性能改善

プロジェクト定義のデータ量が大きい場合に，ファイルへの入出力，ODIP リポジトリ・サーバとの通信に時間がかかる場合がありました。次の操作について，入出力バッファを大きくすることで，応答時間短縮への対応が行われました。

① ODIPアドミニストレータ

- ❑ プロジェクトを開く，保存
- ❑ プロジェクトのインポート，エクスポート
- ❑ リポジトリのチェックアウト，コミット，同期

② ODIPリポジトリ・マネージャ

- ❑ プロジェクト登録
- ❑ インポート，エクスポート

③ ODIPリポジトリ・サーバ

- ❑ 起動時のデータファイルロード
- ❑ コミット時のデータファイルセーブ

④ ODIPプロセスマネージャ

- ❑ 新規プロセス定義，プロセス再構成
- ❑ リポジトリのプロセス定義取得，リポジトリへのプロセス定義登録,
- ❑ プロセスファイルを開く，保存

4. ODIPリポジトリ・サーバにおける例外処理の改定

ODIPリポジトリ･サーバは,リポジトリの更新途中に予期しない例外※が検出された場合,メモリ上のデータを破棄して，ファイルからデータを再ロードすることで，リポジトリデー

タの破損を防ぐ仕様になっています。ところが，例外発生のタイミングによっては，再ロードが行われず,例外発生までの更新だけがリポジトリデータに反映されるケースがありました。例外発生時には，必ずシャットダウン（メモリ例外の場合）または再ロード（予期しない例外の場合）のいずれかの処置が行われるように改定されました。

※ 予期しない例外とは,NULL アクセス,不正索引アクセスなど,通常は発生しない例外を指します。これらの例外は，プロジェクトファイルの損傷，推奨されない操作，ODIP 製品の不具合などに起因して発生する可能性があります。

B. 適用対象

本パッチは、以下の製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v3.2.8
- ODIP オペレーションマネージャ v3.2.8*1
- ODIP リポジトリ・マネージャ/プロセスマネージャ v3.2.8
- ODIP リポジトリ・サーバ v3.2.8
- ODIP トランスフォーマ v3.2.8*1

*1 ODIP オペレーションマネージャ及び ODIP トランスフォーマは，本パッチで変更されたライブラリを参照していますが，本パッチによる変更は，両製品の機能，動作，処理結果に影響を及ぼすことはありません。

C. パッチのインストール方法

1. パッチファイルの内容

本パッチには、次のフォルダとファイルが含まれています。

フォルダ		ファイル名
ODIP328_P20171228	ADM	odpac.jar, odpar.jar, odpcm.jar, odpcui.jar, odprc.jar
	OPM	odpcm.jar, odpcui.jar
	RPM	odpcm.jar, odpcui.jar, odppm.jar, odprc.jar, odprm.jar, odprmhlp.jar
	RPS	odpcm.jar, odpcui.jar, odprc.jar, odprs.jar
	TFM	odpcm.jar

1. ODIP アドミニストレータへのパッチの適用

(1) ODIP アドミニストレータを実行中の場合は終了してください。

(2) ODIP328_P20171228¥ADM 下のファイルを，ODIP アドミニストレータのインストールディレクトリ（デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Administrator”になります）直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。

(3) ODIP アドミニストレータを起動し，ヘルプメニューの“ODIP について”を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更分を示しています。

名称	ビルド ID
Administrator	1030208201606300
Component editor	**1030208201712280**
Repository client access	**1030208201712280**
Transformer client access	1030208201606300
Common	1030208201707060
Common user interface	**1030208201712280**
Common database	1030208201606300
Common model	**1030208201712280**
Repository interface	**1030208201712280**
Transformer engine	1030208201707060
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300
Deprecated models	1030208201606300

2. ODIP オペレーションマネージャへのパッチの適用

(1) ODIP オペレーションマネージャを実行中の場合は終了してください。

(2) ODIP328_P20171228¥OPM 下のファイルを，ODIP オペレーションマネージャのインストールディレクトリ（デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Operation Manager”になります）直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。

(3) ODIP オペレーションマネージャを起動し，ヘルプメニューの“ODIP について”を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更分を示しています。

名称	ビルド ID
Operation manager	1030208201606300
Common	1030208201707060
Common user interface	**1030208201712280**
Common model	**1030208201712280**
Common database	1030208201606300
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300

3. ODIP リポジトリ・マネージャ/プロセスマネージャへのパッチの適用

(1) ODIP リポジトリ・マネージャ，ODIP プロセスマネージャを実行中の場合は終了してください。

(2) ODIP328_P20171228¥RPM 下のファイルを，ODIP リポジトリ・マネージャ/プロセスマネージャのインストールディレクトリ（デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Repository Manager”になります）直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。

(3) ODIP リポジトリ・マネージャと ODIP プロセスマネージャを起動し，ヘルプメニューの“ODIP について”を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更分を示しています。

(ODIP リポジトリ・マネージャ)

名称	ビルド ID
Repository manager	**1030208201712280**
Common	1030208201707060
Common model	**1030208201712280**
Common user interface	**1030208201712280**
Repository interface	**1030208201712280**
Deprecated models	1030208201606300

(ODIP プロセスマネージャ)

名称	ビルド ID
Process manager	**1030208201712280**
Common	1030208201707060
Common model	**1030208201712280**
Common user interface	**1030208201712280**
Common database	1030208201606300
Repository interface	**1030208201712280**
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300
Deprecated models	1030208201606300

4. ODIP リポジトリ・サーバへのパッチの適用

(1) ODIP リポジトリ・サーバを実行中の場合は終了してください。

(2) ODIP328_P20171228¥RPS 下のファイルを，ODIP リポジトリ・サーバのインストールディレクトリ（デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Repository Server”になります）直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。

(3) ODIP リポジトリ・サーバを起動してください。

(4) ODIP リポジトリ・マネージャを起動し，ツールメニューの“ORMS サーバ情報”を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更分を示しています。

名称	ビルド ID
Repository server	**1030208201712280**
Common	1030208201707060
Common model	**1030208201712280**
Common user interface	**1030208201712280**
Repository interface	**1030208201712280**
Deprecated models	1030208201606300

5. ODIP トランスフォーマへのパッチの適用

(1) ODIP トランスフォーマ・サーバを実行中の場合は，“stopserver.sh”コマンドを実行して，トランスフォーマ・サーバを停止してください。

(2) ODIP328_P20171228¥TFM 下のファイルを，ODIP トランスフォーマのインストールディレクトリ直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。

(3) ODIP トランスフォーマ・サーバを起動してくだい。“showserver.sh -i v”コマンドを実行して，下表のビルド ID が表示されることをご確認ください。これ以外のライブラリについては，従来のビルド ID が表示されます。太字は本パッチによる変更分を示しています。

名称	ビルド ID
Common	1030208201707060
Common model	**1030208201712280**
Common database	1030208201606300
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300
Transformer server	1030208201611220
Transformer engine	1030208201707060
Transformer Client Commands	1030208201611220

以　上